

帯広病院 21-4111
 柳町医院 30-3111
 白樺医院 38-3500
 ケアセンター白樺 41-1165

十勝勤医協 友の会ニュース

医療法人 十勝勤労者医療協会
 帯広市西9条南11丁目1番地
 0155-21-4718
 発行責任者 今野 光昭
 URL: http://www.tokachi-kin-ikyo.or.jp
 E-mail: soshiki@tokachi-kin-ikyo.or.jp

秋の大運動始まる

安心して暮らせるまちづくりをめざして



友の会会長
高野 幸雄

「安全に、安心して暮らせる」社会の実現をめざす運動を力強くすすめてよう!

2012年「秋の大運動月間」を迎える時期となりました。今年の「月間」の重点課題を決める特徴的な情勢は、三つあります。

一つ目は、経済的な格差と貧困、超高齢化社会の中で、孤立死や無縁死の事例が多く報告されているように、国民の生活

2009年の政権交代の際、多くの国民が「これで日本は変わる」と期待を抱きました。しかし、民主党は政権公約を次々と投げ捨て、野田政権にいたっては自民党や公明党と手を組み、憲法25条を否定し、国と自治体の責任を放棄する社会保障と税の一体改革関連法を強行しました。小泉政権以降、反貧困の運動や政権交代の力により停滞させてきた新自由主義的改革路線は、原発再稼働の強行、TPP参加の追求、米軍再編強化など財界とアメリカの要望に忠実に応える政治を、野田内閣により大きくおしすすめられようとしています。

東日本大震災の被災地復旧・復興は大幅に遅れて、原発問題は事故の収束、原因究明が全くないまま、原発の再稼働を容認しました。「復興」に名を借りた新たな利権あざりが生まれています。

一方で、公約にはなかつた消費税の大増税、大企業・富裕層への減税、日本の農業や医療などに壊滅的な打撃を与えるTPPへの参加、また、オスプレイの強行配備、武器輸出三原則の緩和、集団的自衛権の容認発言など日米軍事同盟を新たな段階に深化させようとしています。野田政権は「国民の生活・生命より財界・アメリカ第一」を求める支配層の忠実な実行者となっており、今ほど民意と国政がねじれていることはありません。

が立ちゆかない状況下に追い込まれていることです。

二つ目は、東日本大震災・原発事故から一年半が経過しましたが、未だに根本的な解決の方向に向かつていません。そのため、「原発ゼロへ」「住民本位の復旧・復興を」求める世論が日増しに、広範に高まっていることです。

また、予断を許さない情勢としては、「総選挙」が間近に迫っていることを見逃すことができません。これらの情勢に立ち向

国民の大きな願いは、権利としての社会保障、憲法25条を守り生かす社会保障が実現されること

かうためには、広範な人々としつかり手を結んで、「いのち」をキーワードにした取り組みを展開していくことではないでしょうか。そのために、今年もまた、仲間（友の会員）増やしに力を注ぎましょう。

そして、「なぜ、脱原発を急ぐ必要があるのか」「なぜ、TPPは国を滅ぼすのか」「なぜ、消費税は経済を破壊するのか」などの議論を巻き起こして、「安全に、安心して暮らせる」社会の実現をめざし、共に頑張ろうではありませんか。

です。今年度の秋の大運動では、民医連運動を地域に大きく広げ、安心して健康で暮らすことができるまちづくりをめざし、地域住民の命と健康、平和を守る取り組みをすすめていきます。

孤独死・孤立死を 生ませない地域の つながりを重視して

経済的な格差と貧困、高齢者社会の中、孤独死・孤立死や無縁死の事例が多く報告されています。

市場原理の強化と社会保障制度の切り捨てがすすめられ、国民生活に貧困と健康格差が広がっています。健康で安心して住み続けられるために、高齢者への訪問や気になる患者・利用者への訪問、高齢者名簿を基に孤独死・孤立死をおこさせないよう新たに取組む「ひと声かけ・見守り活動」など、人と人とのつながりを重視した取り組みをすすめます。また、無料低額診療事業をはじめ、十勝勤医協の医療・介護活動を地域で広げる活動をすすめます。

地域で力を運動を 押しすすめて

消費増税反対・社会保障制度改革推進法案反対、TPP参加反対、原発ゼロ・再稼働反対、米軍基地撤去・オスプレイ配備反対などの運動は大

きな世論となり、国民的共同が広がっています。しかし、財政危機や自己責任論などの流布、公務員や生活保護へのパッシングなど、国民を分断する報道がされています。

そうした中、地域で連帯・共同を強め、学習を力に運動を押しすすめて、安心して住み続けられるまちづくりをめざします。

大腸がん検診を ひろげよう

「友の会員から大腸がん患者を出さない」を合い言葉に、十勝管内に広がった友の会無料大腸がん検診は今年で7年目を迎えています。昨年度は年間6,405名の方が受けられ、27名の方からガンが見つかり、早期治療に結びついた方もいらっしゃいます。病気の早期発見、早期治療につなげ、地域住民の健康をまもるため、今年も友の会無料大腸がん検診を広げていきます。

共同組織の輪を ひろげよう

様々な取組を通し、民医連・共同組織を地域に知らせ、友の会員やいっしょでも元気読者の拡大に取り組み、健康で安心して住み続けられるまちづくりをめざし、地域での共同の輪を大きく広げていきます。

聴診器

敬老の日、かつては9月15日でした。祝日法改正で今では9月第3日曜日が敬老の日です。

65年前、兵庫県のある村が「としよりの日」と決めて毎年敬老会を開いたのが発祥のようです。厚生労働省が今年、お年寄りの「認知症の将来推計」を発表しました。認知症高齢者は年々増え、2025年には470万人に達するとのこと。今は65歳以上の10人に一人ですが、あと10年そこそこの8人に一人が認知症の社会が到来することに、認知症ってどんな病気？、治療法は？、どんな対応をすれば良いの？、身近な病気なのに、まだまだ知られていないように思えます。▼将来自分が認知症になっても、安心して暮らせる街をつくらうと活動している団体があります。「認知症フレンドシップクラブ」。北海道医療大学の先生方が立ち上げました。いま全国に広がっています。帯広にも事務局があり、今夜会議が開かれます。▼この秋、市民の方々に認知症を知っていた、いただくためのイベントの打ち合わせです。「認知症」のイベントがこれから各地で開かれます。新聞や広報で見かけたら、あなたも参加してみてください。

共同組織活動交流集会 in 岩手

—いま、いのち輝く新しい福祉づくり—

最初に結論から述べますと、今回のテーマである『いま、いのち輝く新しい福祉づくり』『雨ニモマケズ、風ニモマケズ、震災ニマケナイ、原発ノナイ、誰もが安心して住み続けられるまちづくり』が、つらぬかれていた交流集会だったことが一番でした。今回の参加者は、北は北海道から南の沖縄まで、全国各地から1800名を越える人々が、集まりましたと主催者から発表され、参加者全員で「ウォー」と雄叫びをあげました。

9月2日(日)、全体会で開会され、オープニングで現地歓迎企画として、水川太鼓(陸前高田市)が力強く演奏されました。代表者の方より「陸前高田市も、昨年の3・11東日本大震災で、地震と津波の被害にあいました。太鼓の仲間も、津波で亡くなりましたが、しかし太鼓は大丈夫でした。亡くなった仲間のためにも、我々は元気に、今日の演奏となりました。」と発言され、会場から大きな感動と励ましの拍手が沸き起こりました。その後、主催者や来賓があり、今日のメインである「震災に生きる宮沢賢治の世界観」という演題で、元全教委員長・元全労連委員長だった三上満氏が講演し一般的に知られていない宮沢賢治の「人を大切に」する世界観が燃えるような感情を込めた語り口で話し込まれ、会場全体が引き込まれ、時には大爆笑、大拍手と盛会のうちに終了しました。皆さん宮沢賢治に対して新しい発見をしたとか再認識をしたと言っておりました。

その後、夜には私はナイトセッション、語り部「遠野の民話」に参加し、南部地方の方言による民話を聴き、心温まる話に満足し、十勝に帰って、古くからの地元の昔話を調べてみようと思いました。また無ければ、新しく民話を創作して子ども達に聞かせたいと思いました。2日目の9月3日(月)は10の分科会に分かれ、色々な取り組み等を聞きまし。私は「沢内村から学ぶ」の分科会に参加し、平成の合併で今はなくなつた、元沢内村の村長で「生命村長」といわれた深澤晟雄の「住民の生命を守る」活動の全体について講談・講演を聞き、今現在、私達国民が必要としている、いのち輝く新しい福祉の国づくりの原点がここにある、この沢内村の村長の活動を全国に広げることが私達共同組織の任務であり、確実に実行していきたいと確信しました。非常に有意義な交流集会でした。

【友の会連絡会】
副会長 阿部 将宏

ケアセンター白樺では、施設から住み慣れた自宅へ復帰するための取り組みをすすめています。約4ヶ月のリハビリを経て在宅復帰した70代男性Tさんの事例を紹介します。Tさんは奥様と2人暮らし。釣りが趣味で活動的な方でした。昨年の暮れに脳梗塞を発症。右半身マヒと失語の後遺症が残りました。日病院での治療とリハビリを経て、今年の春ケアセンターに入所。当初は車イスの移動が中心で、トイレの動作もふらついて不安定な状態でした。「歩いてトイレに行ってほしい」という奥様の要望で四点杖による歩行や階段昇降の練習を開始。入所2ヶ月目にはご自宅を訪問。本人・

ご家族が無理なく生活できる環境を整えるため、リハ担当者・居宅ケアマネ・住宅改修の担当者らと玄関、トイレなどの状況を確認。手すりの必要

の動作も目に見えて安定してきました。退所前には試験外泊も行い、目標通り8月中旬に自宅に帰ることができました。現在は週に3回デイケアに通い、リハビリを続けています。Tさんのように脳卒中等で医療機関でのリハビリを終えた後も自宅に帰るのに不安のある方は、在宅移行の準備期間として老健施設を利用されることをおすすめします。これからも「自宅で暮らしたい」という願いを少しでも多く叶えるお手伝いができることを私たちも願っています。

【ケアセンター白樺】
療養棟看護師 森田はるみ



8月28日、民医連十勝ブロック原水爆禁止世界大会報告会が行われ、職員35名が参加しました。先月4日〜6日に開催された広島大会に参加した代表3名が、報告会のために作成したスライドを使い、世界大会の概要や現地の様子、学び、感じ取ったことを詳細に報告してくれました。十勝代表団で事務局を担った、帯広病院の野口さんは「世界中の多くの人たちの思いは核兵器廃絶。その思いを形にしていく取り組みを今後すすめていき

ケアセンター白樺では、施設から住み慣れた自宅へ復帰するための取り組みをすすめています。約4ヶ月のリハビリを経て在宅復帰した70代男性Tさんの事例を紹介します。Tさんは奥様と2人暮らし。釣りが趣味で活動的な方でした。昨年の暮れに脳梗塞を発症。右半身マヒと失語の後遺症が残りました。日病院での治療とリハビリを経て、今年の春ケアセンターに入所。当初は車イスの移動が中心で、トイレの動作もふらついて不安定な状態でした。「歩いてトイレに行ってほしい」という奥様の要望で四点杖による歩行や階段昇降の練習を開始。入所2ヶ月目にはご自宅を訪問。本人・

ご家族が無理なく生活できる環境を整えるため、リハ担当者・居宅ケアマネ・住宅改修の担当者らと玄関、トイレなどの状況を確認。手すりの必要

の動作も目に見えて安定してきました。退所前には試験外泊も行い、目標通り8月中旬に自宅に帰ることができました。現在は週に3回デイケアに通い、リハビリを続けています。Tさんのように脳卒中等で医療機関でのリハビリを終えた後も自宅に帰るのに不安のある方は、在宅移行の準備期間として老健施設を利用されることをおすすめします。これからも「自宅で暮らしたい」という願いを少しでも多く叶えるお手伝いができることを私たちも願っています。

代表を送り出す側としては、このように若い職員が現地に行つて被爆地を体感し、原爆投下の真実にふれる中で、「もし…だったら」と想像する。この体験と想像力がその成長につながると確信しています。今、政府は想像力どころか記憶力もなくしたかのよう原発の再稼働をすすめています。「悲惨ではあるが貴重な過去の記憶」を風化させない取り組みが大切です。

【白樺病院】
事務局長 小田原 剛



核の恐怖を感じた！
原水爆報告会に35名

たい」とアピール署名をもっと広げていく決意を語りました。ケアセンター白樺の志子田さんは「大

原発ゼロ道民100万筆署名

核の恐怖を感じた！

近日中に友の会役員、

在宅生活を 続けていくために



ケアセンター白樺
作業療法士 吉野 和孝

こんにちは、ケアセンター白樺で作業療法士をしている吉野です。
今回も、在宅生活を支えるサービスのひとつである訪問リハビリについて紹介します。
実際に行っている訪問リハビリの様子をご紹介します。
訪問リハビリに関する相談がありましたら、ケアセンター白樺
(Tel 0155-41-1165) までご連絡ください。

Cさんのリハビリの様子『退院直後の在宅支援』

【Cさん 80歳代 男性 要介護度4→1 疾患：全身筋力・体力低下、歩行困難】

【相談内容】

筋肉の病気により長期入院となり、歩行困難になる。退院が決まったが、歩行器歩行で常に見守りが必要な状態であり、リハビリを継続したいと相談があった。

【リハビリ内容】

- 1回40分 週に2回訪問
- ①足のストレッチ ②筋力向上運動 ③床上動作練習 ④杖での歩行練習 ⑤階段昇降

【経過】

Cさんは在宅での過ごし方が決まっておらず、退院日に訪問し、歩行器とポータブルトイレ（夜間用）の選定、手すりの設置を業者の方と相談することから開始しました。

手すりはトイレまでの道のりと玄関階段に設置を決定。退院直後は、玄関階段が昇降できず介助者が背負って出入りしていました。

歩行器は家の中に段差が多いこと、ふらつきがあるが支えがあれば十分に歩行可能であることから、タイヤがついてないものを選定。歩行器があることで退院後から積極的に歩く機会ができ、早くに杖歩行が可能になりました。

次に、万が一転倒することがあった際に1人で床から立ち上げられるように練習を実施、また階段昇降の練習も行いました。これらの練習により、活動の範囲が広がり、留守番もできるようになり、介助者にも時間の余裕ができました。

自宅で入浴したいという希望では、浴槽に手すりや踏み台を設置し浴槽内に入る練習を行い、見守りで入れるようになりました。Cさんの病状は回復が良好だったため生活スタイル合わせた動作練習や在宅の環境整備を行っていく支援でした。

現在は入院する前まで通っていたスーパーまで歩いて買い物にいけるよう屋外での歩行を練習しています。



▲ 階段昇降の練習



▲ 浴槽に入る練習をするCさん



瀬川美樹医師（右下）と同行する高校生

今年も帯広拍葉高校の1年生3名と3年生2名が体験に来てくれました。高校生ではなかなか見ることのない内視鏡やC

Tの検査の見学や実際に血圧を測定してみたり、私の外来の見学や訪問診療にも一緒に行きました。短い時間の中で何を伝

帯広病院

高校生一日医師体験



流しそうめんは、

デイサービスほのか

夏の行事目白押し

7月は芽室の菖蒲園に出掛け、8月は流しそうめんをおこなっています。菖蒲園はちょうど見頃で

紫色や白・黄色など色とりどりの花が咲いていました。聞き慣れない花の名前や、今まで見たこと

8月に2回おこなっています。その日は、2日も暑い日だったので、いちだんとそうめんが美味しく感じられていたようです。黄色・ピンク・白の3色鮮やかなそうめんが流れて来るたび、「今度こそ私が取る」「美味しいからもっと頂戴」と箸をすすめ、水がかかるとも気にせず（また、それが楽しくもあり）ワイワイ賑やかにとても楽しく過ごしました。来年は回数ふやして、またやりたいと思います。

【デイサービスセンターほのか 介護主任 菊地 由佳】

えられたかはわかりませんが、感想文を読むと色々なことを感じてくれたことが伝わってきました。それぞれになりたい医師像があったかと思いますが、今回の体験でよりイメージが膨らんだり、励みになってくれたらいいでしょう。

医療職が足りない足りないと言われる昨今です。これから職業選択をしていく若い人たちに大変だけれども魅力ある仕事と思っ

ように、自らも生き活きと仕事をしながら、それを伝えられる職業人になっ

【帯広病院

医師 大久保彩織】

医療、介護負担軽減・消費税増税中止署名

ご協力をお願い致します。

職員が伺います。

